

FAXの操作性とスキャナの利便性を融合 業務用ネットワーク端末『NetSpart(ネツスパート)』

企業のスタッフが仕事を集約的に進めるオフィスという場で、書類や資料といった「紙」の情報管理をどのように行うべきか、頭を悩ます管理者が増えてきている。「ペーパレス化」「ドキュメント管理」「セキュリティ」とあるべき姿だけが先行してイメージされているが、それを現実化し効率的に行う仕組みはまだ少ないようだ。NECアクセステクニカの『NetSpart』は「紙」の情報管理の効率化を目的に開発された、同社の技術力を結集した最先端の通信機器だ。

家庭向けFAXの国内市場は約210万台といわれている。企業向けの単機能のFAXが、コピーやプリンター機能を融合させた複合機へとその需要が移っているなかで、堅実な販売実績を残している。

ただ、その内容をよく見ると個人が家庭向けにFAXを購入するだけではなく、法人需要が少なからずあるという実態が読み取れる。実は小売業の店舗や中小企業では家庭向けに作られた小型のFAXが数多く導入されているのだ。

特に飲食店や小売業では店舗という特性から、接客や商品陳列スペースは広く確保するが、管理をするための場所は極力抑えられている。そのために、外形の大きい事務機器や通信機器は敬遠される傾向にある。FAXも企業向けに作られたものでなく、小型な家庭向けのものが使われている。

家庭向けFAXの製造販売の大手であるNECアクセステクニカは、こうした従来からある法人ニーズに応え、ブロードバンド化というビジネス環境の変化を考慮した、新製品の『NetSpart』を開発した。



せまい店舗でもおける小型設計の『NetSpart』

←『NetSpart』の活用シーン

FAXの使いやすさ追求し だれでも使える製品を開発

『NetSpart』とはどのような製品だろうか。NECアクセステクニカ・マーケティング本部統括部長の荒木和穂氏は次のように話す。「この新製品は見た目はFAXですが、機能はむしろネットワークスキャナといったほうが良いです。FAXの使いやすさを最大限に活かし、紙を入れてボタンを押すだけでネットに紙情報を送ることができます。製品内部にメールアドレスを登録可能で、前述の操作によりメールの添付ファイルとして送れます。操作だけをみれば今までのFAXとなんら変わりありません。PCからスキャナデータを添付して送る場合と比較すると、ボタンを押すだけで送れるわけですから、この製品が便利ながよくわかります。また、FAXは普及してから長い年月を経っていますので、ほとんどの人がその操作を一度は経験をしていると思います。特に、家庭向けの製品であれば、仕事をしたことのない学生や主婦の方でも操作した機会はあったはずで、『NetSpart』は新製品にありがちな操作に対する抵

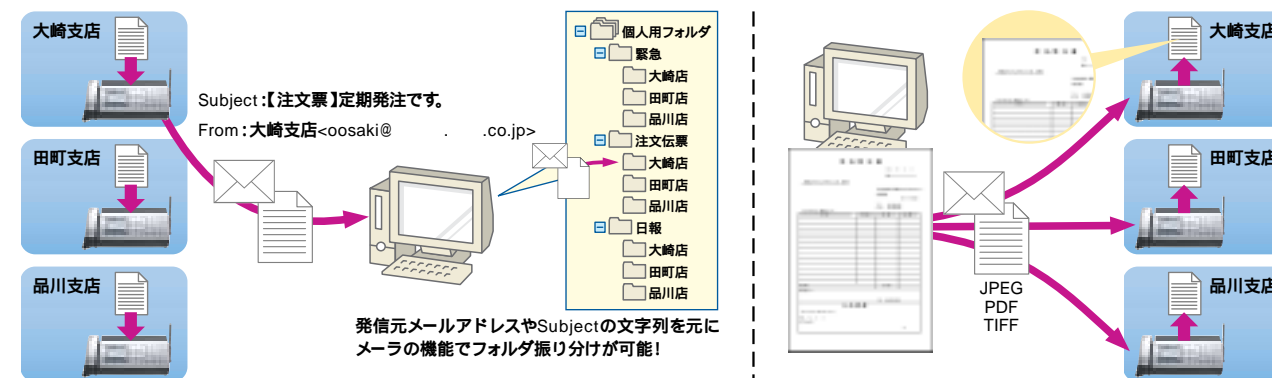
抗感も少なくしています。誰でも仕事のスキルに関係なく、すぐに活用ができる製品です」

すべての企業に使えることであるが、アルバイトやパートタイマー、人材派遣と一時的に雇用される従業員の比率は増え続けている。そのような雇用情勢の中では、企業の管理者は人材の早期戦力化に知恵と力を注がなくては行けない。「だれにでも操作できる製品」というのは、この製品の販売先として想定される企業にとって、導入を検討するための十分な動機となるものと言ってよい。

メールの振り分け機能で 紙のデータを直接担当者に送付

これまでで、この新製品の操作性に関する理解は深まったとは思いますが、「なぜネットワークスキャナなのか、FAXのままでも問題ないのではないか」という点では疑問は残る。それには大きな理由がある。「FAXというのは発信する側より、受け取る側の業務に時間がかかります。大量にFAXが送られてきた場合、誰に届いたのか目的は何かによって、送られた書類を仕分してから必要な人に渡さなくてはなりません。FAXが送る目的に応じて振り分けられて、担当者の手元に届くようにできれば、業務効率が向上することは間違いありません。『NetSpart』はメールの添付ファイルとして、『紙』をスキャナしたデータを送ります。受信側

Eメール振り分け機能による紙情報の仕分と一括同報機能



のメールサーバーやクライアントPCを設定することで、送り先のアドレスやメールの表題(サブジェクト)などを判断して、担当者のPCやサーバに転送することができます。誰にも見られずに配布もできるため、書類の秘匿性を高めることもできます(荒木統括部長)

これで『NetSpart』がメールとネットワークスキャナの長所をうまく活かし融合させた製品であることがよくわかる。そのような製品特性から同製品の応用範囲は広い、特にセキュリティ分野での活用が期待できる。顧客情報の漏洩事件なども近年注目されているが、その主犯は正社員でなく、外部委託された企業のスタッフであるケースが多いようだ。社会全体のモラルの向上というだけで解決できるわけではない。実際の被害を受けないためには、外部委託するスタッフには最小限のデータしか触れさせないようにするのは、基本的な措置の1つだ。

その場合、セキュリティの度合いは高まるが、発注やレポート、勤怠管理など管理者側が欲しい必要な情報が入りにくくなる。そのような情報を現場の正社員に入力させたのでは、コストもかかるし生産性も悪い。

しかし、『NetSpart』を正社員ではないスタッフの専用端末とすれば、PCを使わずにデータの収集もできる。

POSを使うネットワーク環境に共存 チェーン展開を図る企業に提案

今まで話した『NetSpart』の特性か

ら、有力な販売先としてNECアクセステクニカが考えているのが、小売業や飲食店のチェーン展開をしている企業だ。そのような企業ではPOSシステムは必ずと言ってよいほど導入されており、ネットワーク環境も店舗と本部間はブロードバンド化され、VPNなどのセキュリティ対策も施してある。また、店舗のスタッフも臨時採用による雇用形態も多いので『NetSpart』が活用できる業務も多いはずだ。

今まで説明してきた活用方法の他に、一括同報で送る本部からの連絡業務や、『NetSpart』が電話や通常のFAX機能も備えていることから、電話のIP化による通信経費削減や、FAXで使うネットワークの二重化、企業のコミュニケーション業務に付加価値のある提案ができる。

今後の展開について荒木統括部長は次のように話す。「『NetSpart』と同等の個人向き商品として『speax(スピークス)』という製品があります。『NetSpart』と同様にカラーネットワークスキャナ機能を前面に出した製品です。携帯電話に手書きで絵を送るなどの遊び心を演出する用途で開発しました。企業向けでもお客さまの満足度を高めるような製品にならないかなと思

っています。今でも携帯電話に割引のクーポンやチラシを入れるようなことは、簡単にできます。この製品であれば、心のコもった満足度の高いプレゼンテーションができるようになるのではないのでしょうか」管理システムだけでなく、セールスプロモーションやCRMのような顧客対応の分野でも同製品の応用範囲を広げたいと思っているようだ。

それには操作画面を大きくしたり、機能の多様化なども必要になってくる。『NetSpart』は高性能な画像処理LSIを使用しており、高度な画像処理にも対応できる。カスタマイズやメンテナンスもネットから、リモートアクセスで対応できるなど、企業向けのネットワーク製品として基本的な機能はすべて押さえている。

同製品の大きな発表の場としては、2008年3月4日(火)から4日間、東京ビッグサイトで開催された「リテールテック・ジャパン 2008」に出展した。来場者からは興味深い製品であるという評価をもらったという。

NECアクセステクニカではFAXやスキャナが複合化による大型化が進む中で、機能をまとめた小型の通信機器というアイデアで、この製品の独自の優位性を築いていく方針だ。

お問い合わせ先

NECアクセステクニカ株式会社

ビジネスコミュニケーションインフォメーションセンター

TEL: 0537-22-8964

(受付時間: 9:00-12:00, 13:00-17:00 土・日曜日、祝日、年末年始、当社の休日はお休みさせていただきます)

URL: <http://www.nec.co.jp/pcom/netspart/>